　まず、最初に南北統一と言う問題は何も北朝鮮と韓国との二国間の問題なのではないと言うことを私は先に提示しておきたい者です。  
　  
　その南北を分断する38度線と言う境界線は民主主義世界と共産主義世界、すなわち人間の持つ本来の本質を追求する本性的価値観と物質文明を追求する唯物的価値観とを分ける境界線ともなっているのです。  
　  
　人間にはその根底に本来、願わざるものが存在していることもまた改めてうかがわせることになります。  
　それは人の内に否応なく存在する「罪の根」です。そこから再び物質文明支配の思惑が芽吹き始めたのです。  
　今日までの歴史において、この物質文明社会中心の支配の先にあったものは何だったのでしょうか。それを問わなければなりません。  
  
　例を挙げれば、近代ヨーロッパ社会においては専制君主社会が先を争って世界各国を植民地化し、その権益を争いました。異国の財宝、資産を我がものとし、黒人を奴隷として売買をしました。このように特定の専制君主社会の圧政にどれだけの人々が犠牲になったのでしょうか。  
　  
　そこで話を現代社会へと戻しましょう。そして、この現代社会がその過去の過ちを再び繰り返さないとは言えない状況に至っているのです。  
  
　現代物質文明社会を謳歌するようになった人々は更なる所有権争いに奔走するようになりました。  
　  
　そして、もう一つが文化共産主義と言う精神的浸透工作です。  
　そして我が国でも文化共産主義を進める共産左翼によって人権を装い、世論を誘導するのでその是非を判断できないようなっているのです。  
　  
　その「罪の根」の根本でもある霊的存在が何だあるかを共産主義は神の存在と同様に否定しているのでその存在を明確に出来ないことは尚更なのです。  
　それが私達、内なる心の中にある本性的価値観と唯物的価値観の葛藤と相克の内なる境界線は心の38度線とも言えるのではないでしょうか。  
  
　そこで何故、私達は共産主義と戦わなければならないかです。それはこの思想がこの全ての被造世界の根源でもある神と目に見えない心霊の世界の存在を否定しているからです。  
　それは神が人間に賦与された人間の本質を失わせ、人間においての本来の「人生の目的」を現世のみと物質的豊かさの追求、肉身的欲望の充足に置くところにあるのです。  
　このような人生観のベクトル（方向性）の到達地の悲惨さは今日までの歴史によってそれは明白です。  
  
　偶然にもテレビのニュースを見ていたら「世界的に反共で名高い統一教会の文鮮明氏が北朝鮮を訪れました」だったでしょうか、思わず言葉に出たのは「えーっ！」でした。とにかくびっくりでしたものでした。それもそのはずです。金 日成 率いる北朝鮮はそれまで幾度となく文 鮮明 氏を殺害しようとしてきたのですから…  
　しかし、文 総裁は金 首席にこう言われました「あなたはわたしのお兄さんではないか。」  
　自分を殺そうとした金 首席をまるで幾数十年もの間、生き別れた兄弟の接したのです。  
  
　それが北朝鮮のテレビ放送では「世界的に偉大なる指導者、文 鮮明」と形容詞までつけられていたのがいまでも記憶に残っています。  
　あれから30年以上にもなります。あの時は本当に南北統一が成されるのではないかと期待していました。しかし、何故そうならなかったのでしょうか。  
  
　それは私達の一人一人の内なる心の中に38度線が存在しているからだと言うことができます。これを撤廃するために神の本性的価値観に立ち返らなければなりません。つまり、唯物的価値観が優先されるか、本性的価値観が優先されるか、物の豊かさや肉身的欲望の充足が優先されるか、愛や内的良心の為に生きる喜びの充足が優先されるかが問題です。  
　近年、その愛が育まれるはずの家庭の本来の意義や価値が失われつつあります。これが「LGBT理解増進法」を始めとする夫婦別姓、同性愛、性秩序の破壊と言った本来の本質的家庭秩序を破壊しつつあります。しかし、この人権を装った文化共産主義は次第に権力の中枢に浸透し、その勢力を拡大し始めたのです。  
　この現象は宗教的概念がないと実に不思議なものであるはずです。  
　この勢力と今や世界の覇権を標榜する中国共産党とまるで意志疎通を図っているかのように相関関係にあるからです。これは何者によってこのような破滅型の施策を連動、先導しているのでしょうか。  
　それは私達の心の中にも潜在する暗躍する罪の本体に他ならないのです。この存在を明確にし、戦い克服していかなくてはなりません。  
  
　本来、平和と言うものは何が基軸とならなければならないでしょうか。それは神の愛を基軸とした家庭愛の社会適応によって成されなければなりません。  
　それがある特定の国の抑圧的な権力によって支配され、本来の家庭価値が破壊されたとしたら、そこには新たなる分断と闘争を生み出すことはむしろ必然的と言えるでしょう。  
　ですから、南北統一はこのような覇権主義による領土の奪い合いや唯物的価値観の席巻によって成されるものではありません。すべては包括的な家庭愛によって成されなければなりません。  
　ですから、この南北統一が平和的に成された暁には、この統一された国を基軸とした人類の恒久的な平和が到来されることを確信するものです。  
　